



読み取れる
筆遣いの機微まで
原本を体感！

高精細カラー版

新天理図書館善本叢書

第三期

源氏物語 池田本 全十巻 刊行開始！

定家本(青表紙本)系統の諸本中、
最重要古写本の全貌を初公開！



52巻のうち48巻が鎌倉末写の基幹巻

第1回配本第13巻 2016年6月24日刊行！
桐壺・帚木・空蟬・夕顔・若紫
〔解題〕岡寫偉久子(天理図書館貴重書室)

●A5判上製本／六〇〇頁／貼函入 定価(本体三四、〇〇〇円十税)

※このリーフレットの図版は宣伝用の簡易印刷です。



【発売】 八木書店 YAGI BOOK STORE LTD.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
●TEL 03-3291-2961 [営業] 03-3291-2969 [編集] ●FAX 03-3291-6300
●E-mail pub@books-yagi.co.jp ●Web https://catalogue.books-yagi.co.jp/

新天理図書館善本叢書 全5期36巻 刊行スケジュール

*2016年6月現在

各期内容	配本順	通し巻数	タイトル	本体価格	配本年月	刊行年度	ご注文部数	
第1期 国史古記録	1期1回：既刊	第2巻	日本書紀 乾元本 1【国宝】	29,000	2015年4月	平成27年度		
	1期2回：既刊	第3巻	日本書紀 乾元本 2【国宝】	29,000	2015年6月			
	1期3回：既刊	第6巻	定家筆古記録	29,000	2015年8月			
	1期4回：既刊	第4巻	古語拾遺 嘉禄本・暦仁本【重文】	25,000	2015年10月			
	1期5回：既刊	第5巻	明月記【重文】	27,000	2015年12月			
	1期6回：既刊	第1巻	古事記 道果本【重文】 播磨国風土記【国宝】	26,000	2016年2月			
第2期 古辞書	2期1回：既刊	第8巻	三宝類字集 高山寺本【重文】	30,000	2016年4月	平成28年度		
第3期 源氏物語	3期1回	第13巻	源氏物語 池田本 1	34,000	2016年6月			
	3期2回	第14巻	源氏物語 池田本 2	予価34,000	2016年8月			
	3期3回	第15巻	源氏物語 池田本 3	予価34,000	2016年10月			
	3期4回	第16巻	源氏物語 池田本 4	予価34,000	2016年12月			
第2期 古辞書	2期2回	第7巻	和名類聚抄 高山寺本【重文】	予価32,000	2017年2月	平成29年度		
第3期 源氏物語	3期5回	第17巻	源氏物語 池田本 5	予価34,000	2017年4月			
	3期6回	第18巻	源氏物語 池田本 6	予価34,000	2017年6月			
	3期7回	第19巻	源氏物語 池田本 7	予価34,000	2017年8月			
第2期 古辞書	2期3回	第12巻	世俗諺文【重文】 作文大躰【重文】	予価30,000	2017年10月			
第3期 源氏物語	3期8回	第20巻	源氏物語 池田本 8	予価34,000	2017年12月			
	3期9回	第21巻	源氏物語 池田本 9	予価34,000	2018年2月			
第2期 古辞書	2期4回	第9巻	類聚名義抄 観智院本 1【国宝】	予価45,000	2018年4月	平成30年度		
第3期 源氏物語	3期10回	第22巻	源氏物語 池田本 10	予価34,000	2018年6月			
第2期 古辞書	2期5回	第10巻	類聚名義抄 観智院本 2【国宝】	予価45,000	2018年8月			
	2期6回	第11巻	類聚名義抄 観智院本 3【国宝】	予価45,000	2018年10月			
第4期 奈良絵本	4期1回	第23巻	奈良絵本集 1	30,000前後	2018年12月		平成31年度	
	4期2回	第24巻	奈良絵本集 2	30,000前後	2019年2月			
	4期3回	第25巻	奈良絵本集 3	30,000前後	2019年4月			
	4期4回	第26巻	奈良絵本集 4	30,000前後	2019年6月			
	4期5回	第27巻	奈良絵本集 5	30,000前後	2019年8月			
	4期6回	第28巻	奈良絵本集 6	30,000前後	2019年10月			
	4期7回	第29巻	奈良絵本集 7	30,000前後	2019年12月			
	4期8回	第30巻	奈良絵本集 8	30,000前後	2020年2月			
第5期 連歌俳諧	5期1回	第35巻	蕪村集 1	30,000前後	2020年4月	平成32年度		
	5期2回	第34巻	芭蕉集	30,000前後	2020年6月			
	5期3回	第31巻	連歌卷子本集 1	30,000前後	2020年8月			
	5期4回	第33巻	西鶴集	30,000前後	2020年10月			
	5期5回	第36巻	蕪村集 2	30,000前後	2020年12月			
	5期6回	第32巻	連歌卷子本集 2	30,000前後	2021年2月			

お名前 (ふりがな)	TEL	取扱店 (番線印)
	FAX	
	E-MAIL	
ご住所 〒		

● 大型判型オールカラーによる新たなシリーズ

- 1) 旧「善本叢書」(単色)と比べ、豊富な原本情報を鮮明に再現。新収書目多数。
- 2) 墨朱濃淡、微妙な彩色、微細な訓点、料紙の紙継・補修痕、擦消し・書き込み修正など本文校訂の様相等々、細部の可読性が格段に向上。

● 高精細カラー版だから読みとれる新知見

- 1) 朱色の差異、墨の濃淡、筆の強弱など、一目瞭然で読むことができる。
- 2) 閲覧困難である貴重な原本を机上に置くがごとくに精査可能。

● 高精細版を実現する最新デジタル技術と熟練のノウハウ

- 1) 新撮影：原本を高精度デジタルカメラで新撮影、RAW データから直接製版。
- 2) 最新製版技術：製版仕様はイクオス・スーパーセル 260 線を新たに採用。
- 3) 厳密な色再現：色校正での原本照合とハイブリッド UV システムによる印刷。

第1期 国史古記録 全6巻セット



第三期 源氏物語 池田本 全十巻

ISBN978-4-8406-9693-0 (ポット)

【解説】岡寫偉久子 (天理図書館貴重書室)

- 造本 A5判/上製本/クロス装/貼函入/平均約五六〇頁
- 定価 第三期全十巻セット予価 (本体三四〇、〇〇〇円十税)
- 各巻分売可 第三期各巻予価 (本体三四、〇〇〇円十税)

● 池田本五十二巻のうち、取り合わせ四巻(※印)以外の四十八巻は全て鎌倉末書の基幹巻

- 第13巻 第1回配本 [平成28年 (2016) 6月] ※各巻ISBN下5桁 [9563-3]
- 一 桐壺・帚木・空蟬・夕顔・若紫
- 第14巻 第2回配本 [平成28年 (2016) 8月] [9564-0]
- 二 末摘花・紅葉賀・花宴・葵・賢木
- 第15巻 第3回配本 [平成28年 (2016) 10月] [9565-7]
- 三 須磨・明石・滯標・蓬生・関屋・絵合・松風
- 第16巻 第4回配本 [平成28年 (2016) 12月] [9566-4]
- 四 薄雲・朝顔・少女・玉鬘・初音・胡蝶
- 第17巻 第5回配本 [平成29年 (2017) 4月] [9567-1]
- 五 螢・常夏・篝火・野分・行幸・藤袴・真木柱・梅枝・藤裏葉
- 第18巻 第6回配本 [平成29年 (2017) 6月] [9568-8]
- 六 若菜上・若菜下
- 第19巻 第7回配本 [平成29年 (2017) 8月] [9569-5]
- 七 横笛・鈴虫・夕霧・御法・幻・匂宮・紅梅
- 第20巻 第8回配本 [平成29年 (2017) 12月] [9570-1]
- 八 竹河・橋姫・椎本・総角
- 第21巻 第9回配本 [平成30年 (2018) 2月] [9571-8]
- 九 早蕨・宿木・東屋
- 第22巻 第10回配本 [平成30年 (2018) 6月] [9572-5]
- 十 浮舟・蜻蛉・手習・夢浮橋

池田本『源氏物語』の特長

― 第1回配本所収「解題」書誌的概要(岡寫偉久子)より抜粋 ―

本書は、かつて池田亀鑑「桃園文庫」の所蔵であったことから「池田本」、あるいは「二条為明筆」との極札を持つことから「伝二条為明筆本」とも呼称されてきた。『源氏物語』五十四巻中の花散里・柏木巻を欠いて全五十二巻四十九冊。この内、後からの取り合わせである四巻四冊(賢木・東屋・蜻蛉・手習巻)を除く四十八巻が成立当初の基幹の巻々である。『源氏物語大成』以来、その筆致・紙質・装本の趣等から鎌倉末期の成立と認定されている。『大成』校異欄には略号「池」として採録されている。基幹の四十八巻はすべて「青表紙本」としての採録で、その中で桐壺・初音・浮舟・夢浮橋の四巻については『大成』底本である大島本が欠巻、あるいは時代の下った後補等であるために、本書池田本が底本となっている。

このような池田本は、『源氏物語』鎌倉写本中、成立当初の基幹巻を最も多く保持する伝本であり、同時に、その四十八巻の本文がすべて「青表紙本」で揃っていることは、「青表紙本」鎌倉写本において現在のところ他に例がない。「略」この基幹巻四十八巻は書写者がほぼ二手(甲筆・乙筆とした)に集約される。中でも甲筆とした三十六巻は整った一定の筆致であり、この内の八巻には本文同筆の「奥人」が付載されている。

藤原定家が『源氏物語』本文を整えた時、その各巻末に書き入れた簡略な勘物である「奥入」、周知のように、その有無は『大成』においての「青表紙本」伝本価値判断の最も重要な事項の一つであった。先に述べた数々の特徴を持つ本書池田本が『大成』の底本とならなかったのは、池田本の奥人は巻によって偏った不備なもの、という池田氏の判断が大きく左右したとも言われている。「略」しかし、その後「奥人」についての調査・研究は進展し、本書池田本の「奥人」は最も初期の形態に属するものか、との再評価も行われている。

鎌倉写本としての池田本の姿を見る時、一枚添えられた後補の打曇紙表紙の次には、多くの巻々に成立当初の本文共紙表紙がそのまま残されている。鎌倉期の本文に対しては、室町期の勘物に類する行間書入の他には、ほぼ後補の手が入っていない。成立当初の本文・姿を比較的明瞭にたどれる写本であると言つてよい。

定家が整えた「青表紙本」の本文は、室町期以降現在に至るまでほぼ『源氏物語』鑑賞・研究の基底本文であったと言つてよい。しかし近年、この「青表紙本」の概念に対しての様々な疑義・見解が報告され論じられている。旧来の「青表紙本」の概念そのものが揺らいでいる現在の状況において、鎌倉期成立当初の基幹本文四十八巻をそのまま保持している池田本は、向後、重要な役割を果たす伝本となると思われる。

新天理図書館善本叢書【各期ご案内】

第2期 古辞書【既刊】第8巻 三宝類字集



既刊 ※本叢書は全て分売いたします

【第一期】国史古記録 全六巻 完結！

● 全六巻セット 本体一六五、〇〇〇円

【第二期】古辞書 全六巻

【第一期】和名類聚抄 高山寺本 [第2回配本]

【重要文化財】A4判/約二六〇頁/予価三、一〇〇円

【第二期】三宝類字集 高山寺本 既刊！ [第1回配本]

【重要文化財】A4判/二六頁/本体三〇、〇〇〇円

【第三期】類聚名義抄 観智院本 一 仏 [第4回配本]

【重要文化財】A4判/約四七〇頁/予価四五、〇〇〇円

【第四期】類聚名義抄 観智院本 二 法 [第5回配本]

【重要文化財】A4判/約四七〇頁/予価四五、〇〇〇円

【第五期】類聚名義抄 観智院本 三 僧 [第6回配本]

【重要文化財】A4判/約四七〇頁/予価四五、〇〇〇円

【第六期】類聚名義抄 観智院本 四 僧 [第7回配本]

【重要文化財】A4判/約四七〇頁/予価四五、〇〇〇円

【第七期】世俗諺文 作文大躰 [第3回配本]

【重要文化財】A4判/約三〇〇頁/予価三〇、〇〇〇円

【第八期】奈良絵本 全八巻 二〇一八年十一月刊行開始

【第九期】連歌俳諧 全六巻 二〇二〇年四月刊行開始

桐壺 表紙・巻頭・奥入

